

国政に挑む決意



私は16年間、主に港区議会議員として港区政に関わってきました。一貫して、役所主導の政治を変えるべく、「行政改革」の旗を掲げて取り組んで参りました。

破たん確実な公共駐車場経営をずる第三セクターを追及し続け解散さ

せたこと、一食2,500円の直営学校給食の民間委託化を実現させたこと、密室の保育園入所判定を透明化させるための基準見直しを実現させたことなど、一定の成果はあったものと自負しています。

しかし、根源的な部分にはどうしてもメスが入りませんでした。

例えば、天下り。港区にも厳然としてありますが、「あっせんはしていないから天下りではない」という役所の言い訳は、霞が関と全く同じです。また、タテ割り行政も補助金漬け行政もいやというほど見てきましたが、これらも「霞が関に右にならえ」状態。つまり、住民でなく、常に霞が関に目が向いているのです。霞が関を頂点としたピラミッド構造、これが日本の政治風土です。国民本位の政治に本気で変えるには、ピラミッドの頂点にメスを入れるしかない。

行政改革とは、官尊民卑の社会の構造そのものを変えること。私は、真に国民主権の政治を実現させなければ日本の未来はないと確信します。

政権交代がなされても、未曾有の大震災が起きても、原発がメルトダウンしても、政治は何一つ変わりません。国民を信頼せず、情報は統制され、何より政治が大方針を示せずにあります。「誰がやるか」ばかりにとらわれ、「何を目指し何をやるか」は置き去りです。増税路線…とめどない負担増の社会になって本当にいいのか。原発ムラ温存…不公平な既得権が温存され続ける社会でいいのか。いい訳がありません。夢も希望も持てない社会になってしまっています。

これらが今、官僚主導でなし崩しに進められています。民主・自民の二大政党は一体化して追随しています。

小斉太郎とみんなの党は、敢然とこれらの対極に位置します。そして、国民の皆さんとともに「官権から民権へ」の大改革を手掛けたい。自立した国民による自由で公正な社会をつくる。明るく活力ある経済活動を通じて、豊かで安らかな、希望溢れる社会をつくる。

小斉太郎の挑戦にぜひお力をお与え下さい。

よろしくお願い申し上げます。

小斉太郎

新しい日本の針路を示す時

これからの復興や新しい国づくりは民主党に任せておけない。だから、一部批判はあっても、不信任決議案提出の大義はある。情報を権力者周辺の都合で統制する政治でいいのか。これだけの人災の責任も取らず、従来の既得権層が温存されているのか。政治行政がへそくりも出さず、痛みも引き受けず、金がないと偽って増税や電気料金値上げに傾倒していくことが、本当に国民本位の政治なのか。このまま菅民主党政権が、震災後の政治を担うことは、必ずや将来に禍根を残すことになる。

私小斉太郎は、みんなの党は、この厳しい震災が起きてしまった今だからこそ、新しい日本の針路を示したい。隠し事のない国民とともに歩む政治を實踐したい。そして、増税の前にやるべきことがある。これらを実践することで、未来に夢の持てる、自由で自立した日本を作れると確信している。みんなの党サイトに我々の具体的提案を載せてある。<http://bit.ly/iYXkAg>

今回の不信任決議案提出前、菅首相は絶対辞めないと言っていた。国会も6月で一旦閉じると言っていた。それが土壇場になって、「道筋がいたら辞める」と。「国会も通年で開く」と約束したという。自公に全て賛同しないが、一つの成果と言える。

ただし、またぞろ民主党のコップの中の約束事だ。内々にすぐにもでも反故にできる。しかも「原発事故の収束に目途がついてから」が条件？、そんな簡単な災害ではないのだ。人類が経験したことのない、未体験の領域なのである。菅首相は、「辞める」と決意したならば、その時は今以外あり得ない。

民主党そのものも、政党の体をなしていないことが改めて明らかになった。鳩山前首相がその象徴。不信任案に賛成する、と言ったかと思えば、首相の軽い口約束を大義名分にして「やっぱり反対」。本当に菅 NG ならば、今辞めさせるべきだし、できなければ離党せよ。

このまま民主党が政権を担っていても、新しい日本を作るための方向性を示すことなど到底できないことが露呈したのだ。私の師である田中秀征氏は「現在の統治構造には、チェック機能、代謝機能、価値投与機能が欠けている」と常々厳しく指摘している。今の民主党は、震災対応に最も求められる「価値投与機能」、すなわち「官僚組織に目標と方向を与える」機能を全く発揮できない、持ち合わせていないことが露呈したのだ。明確な旗を高々と掲げ、ゆるぎない目標を示せない。元が、政権交代の受け皿でしかなかったからだ。

私小斉太郎、所属するみんなの党は、この「価値投与」の役割を果たしたい。国民の皆さんに示し、推進力を与えて頂き、国民の皆さんとともに、これまでの既得権構造を打ち破り、自由で自立した国を、地域のことは地域で決められる国に、公正でチャンスあふれる社会に、家族が温かく暮らせる社会に、困難な状況の方を支えられる社会に、変革していきたい。

自民政権下では、政官財の癒着が厳しく問われ、ついに民主党への政権交代が国民の手で行われ、大きな期待が寄せられた。しかし、民主党政権は、「政官財」に「労働界」が加わり、既得権構造は拡大され、維持され、最優先される政治になってしまった。これだけの原発事故を起こしながら、東京電力温存、総発電の地域独占・9電力事業者体制温存、原子力政策見直しに後ろ向きな態度。この一実例からみても、既得権擁護政権であることは明白だ。これは、自民民主の二大政党は同じ穴の貉だ。だからこそ、既得権にはメスを入れずに、国民負担を求める増税、電気料金値上げ路線になる。

津波で、地震で、原発事故で、これだけ多くの被災者がおり、生活政権の目途が全く立たない方々が数えきれないほどいらっしゃる。しかし、こんな未曾有の災害がおきても、従来の秩序は壊さない、壊したくない。これが、我が国

みんなの党 東京都第一区支部長

小齊太郎 こさいたろう の目指す政治

増税の前に徹底的な政治・行政改革を！

- ★ 国会議員を45%削減する（衆300・参100に） / 歳費を30%削減し、特権（宿舎・年金等）を廃止する
- ★ 公務員給与の20%削減 / 天下り法人を廃止・完全民営化し、天下りを根絶する / 政治任用を拡大する
- ★ 地方出先機関を廃止し、国の権限を地方へ大幅移譲する（地域主権型道州制の導入へ）

真に公正な社会の実現を

- ★ 雇用形態・性別や職種に関わらず、同一の賃金水準を確保し、社会保障の均等待遇を実現する
- ★ 情報公開・説明責任を徹底し、口利き政治を排す

平和を貫く明確な姿勢を

- ★ 唯一の被爆国として、核廃絶や軍縮の先頭に立つ
- ★ 集団的自衛権の行使には慎重姿勢を貫くとともに、海外での武力行使は行わない

子どもを第一に考える、選択可能な保育・教育の提供を

- ★ 官独占の保育事業を改め、民間に、また親に開放して需給ギャップを埋め、「選べる保育」を実現する
- ★ 官独占の学校教育を改め、あらゆる主体による教育実践を認め、「選べる教育」を実現する
- ★ 育児休業や職場復帰の完全保障と家庭保育の支援強化によって、親による子育てを推進する

大震災を大教訓に

- ★ 国民を信頼し、情報統制のない（本当のことを伝える）政治を絶対に実現させる
- ★ 原発からの卒業、戦略的エネルギーシフトを（新技術導入支援 / 電力自由化（地域独占廃止・送発電分離等） / 原発ムラ解体）… 子どもの命と健康を第一に考える政治を絶対に実現させる
- ★ 復興財源には増税ありきでなく、埋蔵金（特別会計のへそくり等）・行革成果・バラマキ全廃、日銀引き受けも含めた国債発行を充てる… 既得権を排す政治を絶対に実現させる
- ★ 復興は、地域の未来を本気で考える被災地の皆さんに主体的に担ってもらう（現地に復興院を設け、権限・財源・人間を全面委譲）… 中央集権から地域主権の政治を絶対に実現させる

小齊太郎の略歴

1970年（昭和45年）1月16日
東京・渋谷区生。

渋谷区立千駄ヶ谷小学校、私立早稲田中学・高等学校を経て、1993年（平成5年）早稲田大学社会科学部卒業。

港区には、1983年（昭和58年）南青山に転入。

都議会議員秘書・代議士秘書として勤務後、

1995年（平成7年）港区議会議員選挙に立候補。最高位当選、以降連続四期、任期満了で退任。その間、2004年（平成16年）港区長選挙に立候補、次点落選のため、三年間の浪人生活を経験。

地元の皆さんとともに、消防団活動、町会・商店会活動、青少年地区委員会活動等にも積極参画。

taro@kosaioffice.com

Twitter → [taro_kosai](#)

（2011/06 作成 -第二号・第二版-）

（\1面から続く）

の「政官財の指導層」の基本姿勢にしか見えない。原発事故後の政府・東電の対応は、「秩序を守るため、既得権を維持するためには『情報を隠してもいい』』という姿勢ではなかったのか。国民を信頼していない何よりの証だ。このことは、国を大きく誤らせる。いや、すでに誤らせ始めている。

被災者の皆様に伝えたい。確かに、自民党や民主党が主役の「内閣不信任決議案」の提出の顛末をみて、「何をやっているんだ」「そんなことをしている場合でない」「被災地の救援・復旧・復興に力をあわせ尽力せよ」等の声があることは、十分に理解できる。

しかし、力をあわせる能力が著しく低い、救援の復旧の復興の明確な方向性

を示すこともできない、何よりもこの震災という非常事態を受けて、未来に向かって政治を動かす哲学がない、こんな現政権に今の政治を任せることは、必ず将来に禍根を残す。今は批判されるかもしれないが、将来から今を振り返った時、あの時政権担当者を変えるべき時だったと判断頂ける、私はそう確信している。

本日の採決結果がどうあれ、採決結果後の菅首相の決断がどうあれ、私は私の信ずるところに従い、論考し、発言し、行動し、目指すべき日本を志向する。小齊太郎の政治姿勢に何ら変更はない。

2011.6.2（不信任案採決の衆院本会議を見ながら）Twitterより